

令和3年3月30日審議

1	申請者	看護師	倉田 彩加
		2020-98	てんかん患者における後天性脳損傷のための認知コミュニケーションチェックリスト日本語版の有用性と、その他認知機能、静清機能、社会機能との関係性の研究
	研究の概要	てんかん患者に対して後天性脳損傷のための認知コミュニケーションチェックリスト日本語版を実施し、その有用性を確認するとともに、てんかん患者の言語機能とその他の認知機能、精神機能の関連を調査する。また、それら認知機能、言語機能、精神機能がどのように社会生活に影響しているか、社会機能との関係性を調査する。	
判定	承認	本申請は承認された。	
2	申請者	作業療法士	遠藤 広海
		2020-99	てんかん患者における職業認知能力訓練(VCAT-J)の有用性に関する研究
	研究の概要	VCAT-Jは、認知機能リハビリテーションにより精神疾患のある患者の社会生活や就労能力向上に繋げるプログラムとして開発され、これまで精神疾患のある患者の認知機能改善及び就労に効果が示されている。てんかん患者において、認知機能改善が社会参加に繋がることも示されている。本研究はてんかん患者において、VCAT-Jの有用性を検証することを目的としている。	
判定	承認	本申請は承認された。	
3	申請者	副薬剤部長	矢嶋 隆宏
		2020-100	抗てんかん薬が簡易栄養評価法CONUT法に及ぼす影響について
	研究の概要	抗てんかん薬は、副作用のリスクの高いことは知られているが、栄養状態への影響はあまり話題にならず、抗てんかん薬の薬剤数と栄養状態の関連性について調査したい。	
判定	承認	本申請は承認された。	
4	申請者	副薬剤部長	矢嶋 隆宏
		2020-101	てんかん患者におけるケトン食療法(アトキンス食変法)が併用抗てんかん薬に与える影響
	研究の概要	ケトン食療法及びアトキンス食変法は、乳幼児から小児が主な対象とされ長期にわたり実施されることから、有効例に対しては発作の抑制から治療効果を高めるとともに服用剤数の減少及び服用量の減量が着たいされ、コンプライアンスも含めた患児の発達に良い影響を及ぼすと考えられることから本治療法導入が多剤併用の回避に有用かを検討する。また、有効例と無効例の違いについても検討する。	
判定	承認	本申請は承認された。	
5	申請者	脳神経外科医長	近藤 聡彦
		2020-102	癲痕脳回を伴う後部皮質てんかん患者に対する外科治療についての後方視的研究(2020-08のR3継続)
	研究の概要	当該施設における癲痕脳回を伴う後部皮質てんかん患者における外科治療の実際を把握し、今後の同様の症例におけるよりよい治療方針を策定することが目的である。	
判定	承認	本申請は承認された。	

6	申請者	脳神経内科医師	寺田 達弘
		2020-103	脳神経疾患における脳構造と脳機能の評価 (2018-30のR3継続)
	研究の概要	<p>目的は、脳神経疾患に特徴的な脳萎縮、脳機能障害のパターンを検討することである。これにより、診断精度の向上に繋がる可能性がある。また、各種臨床症状の責任病巣と神経基盤を検証することにより、脳神経疾患の病態機序の解明に迫ることができる可能性がある。</p>	
	判定	承認	本申請は承認された。